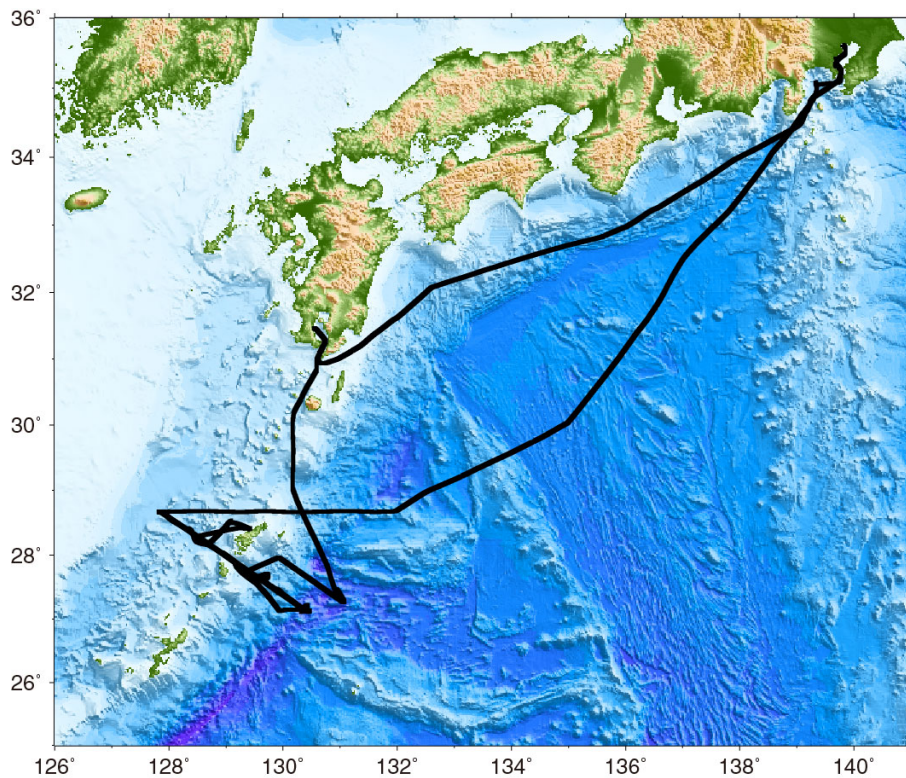


提出日：2017年9月15日

クルーズサマリー

1. 航海情報

- (1) 航海番号 KM17-08C
- (2) 船舶名 「かいめい」
- (3) 航海名称 平成29年度 所内利用 受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト：
巨大地震発生域調査観測研究」
- (4) 首席研究者 高橋 努[海洋研究開発機構]
- (5) 課題代表研究者 小平 秀一[海洋研究開発機構]
- (6) 研究課題名 受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト：
巨大地震発生域調査観測研究」 1 広帯域自然地震観測・海域構造調査
- (7) 航海期間
平成29年8月16日(水)～平成29年9月6日(水)までの22日間
- (8) 出港地～寄港地～帰港地
[京浜港東京区有明]～[横浜港]
- (9) 調査海域名
南西諸島海域
- (10) 船舶の航跡図



2. 実施内容

(1) 調査概要

南西諸島では地震観測点が島嶼部に限られているため、定常的な地震活動や地下構造について十分には解明されていない。受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」内の「巨大地震発生域調査観測研究」調査観測分野では、九州から南西諸島海域における地震活動や沈み込み帯の構造、地震発生の構造的背景を明らかにすることを目的として、自然地震観測や制御震源による構造探査などを実施している。本航海では、奄美群島周辺において反射法地震探査および海底地震計を用いた屈折法地震探査を行い、詳細な地殻構造と沈み込むフィリピン海プレートの形状を解明する。

(2) 実施項目

(a) 屈折法地震探査

測線 RK03 上において 30 台の短周期海底地震計（東京測振製）を設置し、測線上で 2~3 条のエアガンサブアレイを海面下 10m で曳航し、往復でのエアガン発振による屈折法探査を実施した。発振間隔は 200m で、往路と復路で発振点を 100m ずらした。エアガン発振終了後、全ての海底地震計を回収した。

(b) 反射法地震探査

測線 RK03 および RK04 において、ストリーマケーブル（1500m）と 3 条のエアガンアレイによる反射法地震探査を実施した。エアガンとケーブルの深度はそれぞれ 10m と 21m とした。

(c) 海底地形・重力・地磁気観測

調査中はマルチビーム音響測深器による海底地形データや重力・地磁気データを取得した。